

第IV章

主な品目別の課題と振興方策

1 果樹

1-1 露地びわ

現状・課題

露地びわは、長崎市が全国トップの栽培面積と生産量を誇る果実ですが、近年は台風や寒害等の度重なる気象災害の都度、生産量が減少しているほか、急傾斜地に階段状に展開する果樹園の土地条件や有害鳥獣被害、農業者の高齢化、放任園の増加など様々な問題を抱えています。

農林業センサスにおける販売目的で作付けした農家数は、令和2年は412経営体で、10年前と比較すると64%となっています。

このような状況を克服するため、生産者・JA・長崎市・長崎県が一丸となり、日本一のびわ産地の継続と発展を目指し、災害に強いびわ産地に向けた取組みや長崎びわ「なつたより」の生産拡大・計画的安定生産の確立・ブランド化に取り組んでいます。

振興方策

- 1 「なつたより」の生産販売振興（計画的な植栽、独自ブランド化、スマート共同選果等）
- 2 災害に強い産地に向けた体制づくり（簡易ハウス導入、果樹共済・収入保険等加入促進、低樹高化）
- 3 園地・園内道等の整備
- 4 施設・露地栽培での品種間リレー販売によるブランド確立
- 5 作業受委託組織による労力支援・新たな防除（ドローン防除等）の確立
- 6 園地台帳整備・指定園制度による販売戦略の確立
- 7 補完作物導入による経営安定の強化
- 8 集出荷施設の集約・整備強化
- 9 びわ講座等による定年帰農者等の担い手づくりの推進

1-2 ハウスびわ

現状・課題

ハウスびわは、生産農家の高齢化や施設の老朽化・ハウス資材の高騰等により、農業者や生産量は減少傾向にあり、農地条件が良好な地域においては、施設の長寿命化対策や面積拡大及び定年帰農者等の就農があるものの、栽培面積も減少傾向にあります。

また、燃料価格の問題や暖房機の老朽化等から、生産コストの増大が懸念されています。

振興方策

- 1 補助事業を活用した施設整備による栽培面積の維持・拡大
- 2 計画的安定生産の確立
- 3 ハウスの長寿命化・遊休ハウスの流動化
- 4 単収及び秀品率の向上
- 5 有利販売の確立



1-3 みかん・中晩柑

現状・課題

みかんは、県内に大きな産地があります。近年の気象条件により、果実の品質・単収が不安定で販売価格が低迷しており、JA統一ブランド「長崎の夢」・「味ロマン」のブランド率向上に向けた栽培技術向上が課題であり、高品質果実の安定生産が必要です。

中晩柑は、不知火・津之望などの優良品種への改植が進んでいます。

振興方策

- 1 優良品種への品種構成の転換・早期成園化
- 2 マルチ被覆面積の拡大・根域制限栽培等の新技術への取組みなどの高品質安定生産の推進
- 3 長期貯蔵技術の確立普及
- 4 柑橘類・果樹類品種構成の見直しによる労力分散



1-4 もも・なし・ぶどう

現状・課題

もも・なし・ぶどうは、生産量は多くありませんが、地域の特産となっており、施設栽培も行われています。びわや柑橘類と時期が異なることから、労力分散が可能な品目となっています。しかしながら、いずれも生産量や品質向上が課題となっています。

振興方策

- 1 もも
 - 適正栽培管理の徹底による単収・品質の向上
 - 優良品種への更新による若返り
- 2 なし
 - 栽培管理技術の統一と向上
 - 共同販売体制の確立
- 3 ぶどう
 - 新品種等の導入
 - 栽培管理技術の統一と向上
 - 新規販売先の早期開拓による有利販売



1-5 ザボン・ゆうこう・アボカド・レモン

現状・課題

歴史性や物語性のあるザボンやゆうこう、新たな生産が検討されているアボカドやレモンは、栽培面積や生産量が少ないため、消費拡大や加工品の開発にむけた取組みを推進し、生産の拡大を進める必要があります。

振興方策

- 栽培管理技術の確立と向上による品質の向上
- 加工品開発の推進と認知度の向上



2 野菜

2-1 いちご

現状・課題

いちごは、長崎市南部地区・東部地区・琴海地区で生産され、新規就農者や若い農業者が多い品目であり、長崎市の主要農産物の一つです。現在、優良多収量品種「ゆめのか」に転換されており、収量と単価が安定しています。

また、農林業センサスにおける販売目的で作付けした農家数は、令和2年は73経営体で、10年前と比較すると62%となっています。

なお、生産販売における課題としては、品種の転換期による安定生産技術の確立、単収の格差、生産の省力化及び出荷調整作業の効率化などがあげられます。

振興方策

- 1 安定生産技術の確立・単収の格差是正
- 2 年内出荷比率の向上・大玉果生産の確立
- 3 ハウスの長寿命化・遊休ハウスの流動化
- 4 電照や自動化ハウス設備導入に加え、ICTを活用した環境データに基づく制御技術の確立
- 5 出荷調整作業の労力軽減・JAパッケージセンター構想の進捗
- 6 出荷市場集約等による安定販売



2-2 アスパラガス

現状・課題

アスパラガスは、単価・収益性とも比較的安定している品目であり、琴海地区を中心に、新規就農者も多い品目です。しがしながら、夏場の高温期の作業と品質低下、単収の個人格差、株の老齢化、連作障害による収量低下などが課題となっています。

なお、琴海地区では、ホワイトアスパラガスも生産されています。

振興方策

- 1 高齢株園の更新・株の若返りによる安定生産
- 2 夏場の下温対策による品質向上と作業性向上
- 3 ハウスの長期利用化・遊休ハウスの流動化
- 4 低単収農家に対するサポート



2-3 ミニトマト

現状・課題

ミニトマトは琴海地区を中心に生産され、収益性の高い品目といえますが、生産コスト等の上昇や単価の下落により経営の伸び悩みが生じています。

また、施設・設備への投資が必要であることや、労働時間が長いことから、個々の規模拡大が進んでいない状況にあります。

振興方策

- 1 生産コスト削減による所得の向上
- 2 ハウス設備導入による省力化・高品質化
- 3 出荷調整作業の軽減



2-4 野菜類（ばれいしょ・しょうが・新規野菜・伝統野菜等）

現状・課題

野菜類では、「ばれいしょ」「ほうれんそう」「しょうが」「ねぎ」「すいか」「トマト」「伝統野菜」など小規模で豊富な種類の野菜類が生産されています。

また、都市近郊型農業として生産されていますが核となる品目に乏しく、個々の生産者が中央卸売市場や直売所などへ出荷しています。

今後、異なる作物のリレー栽培の導入、新規作物（ブロッコリー等）の作付け、物語性のある伝統野菜の活用向上による生産量と経営の安定が課題となっています。

振興方策

- 1 核となる品目の選定・試作及び作付の推進
- 2 定年帰農者や直売所出荷型農業者などを対象とした生産の推進
- 3 加工・業務用向け露地野菜の推進
- 4 省力化小規模園芸ハウス導入による高品質生産の確立



3 花き

3-1 菊

現状・課題

菊は、周年栽培を基本としていることから、台風などの気象災害対策として高規格ハウスが導入されており、長崎市の土地条件から圃場分散型や他市への出作等の栽培形態となっています。

農林業センサスにおける販売目的で作付けした農家数(花き類)は、令和2年は156経営体で、10年前と比較すると70%となっています。

施設の省力化・自動化、省力化品種への転換等をおこなっていますが、なお労働時間の多さや労力不足が生産性の低下の一因となっています。

近年、輸入花きの増加や需要低迷により、花きの消費拡大に向けたニーズの喚起も課題となっています。

振興方策

- 1 開花調節や複合環境制御技術導入による施設回転率の向上・品種の転換及び雇用労力確保による高品質生産
- 2 適正管理の徹底による重要病害虫対策の徹底と需要期安定出荷
- 3 生産コストの低減
- 4 物日・祭事等の花定着・公共等消費・祭事直販など新需要の創出
- 5 統一ブランドの確立や市場等連携による単価安定・スマート農業の確立

3-2 草花(トルコギキョウ・キンギョソウ・ストック・水仙等)・花木

現状・課題

草花類は、若い農業者が比較的多い作物となっており、三和地区や琴海地区において、施設面積の拡大・ハウス設備の充実が図られています。比較的小規模でありますが高齢層が若い産地であることから、今後なお一層、品質と所得の向上に向けた取組みにより、産地の発展が期待されています。

野母崎地区を中心とした日本水仙、古賀地区では「花木」が生産され、その歴史は古く、高い評価を得ています。

振興方策

- 1 草花施設の省力化・自動化及び雇用労力確保による高品質生産
- 2 消費者ニーズの把握による作付作物・有望作物(ユウカリ・ほおずき)の選定
- 3 新規生産者の掘り起こし等による水仙産地の継続
- 4 物日・祭事等の花定着、公共等消費及び祭事直販など新需要の創出



4 畜産

現状・課題

畜産は、肉用牛（肥育・繁殖）、乳用牛、養豚、養鶏及び酪農に大別されます。「長崎和牛・出島ばらいろ」は、生産者と関係機関が一体となってブランド化に努めています。

長崎県家畜・家さん飼養頭羽数等によると、肉用牛の飼養戸数は令和2年度で22戸となっています。

肉用牛の肥育農業者においては、近年の素牛価格の高止まりによる生産コストの増大を受け、JAでの繁殖雌牛飼育の委託により素牛導入コスト低減を図っております。

また、家畜ふん堆肥が余剰状態となっているため、野菜や果樹生産などの耕種部門と畜産部門との連携を行い、堆肥の消費拡大に取り組んでいます。

なお、畜産経営においては、家畜伝染病の予防強化と危機管理体制の充実が図られています。

振興方策

- 1 低コスト生産による経営の安定
- 2 飼育頭数の確保・耕畜連携の推進
- 3 家畜疾病防疫体制の強化



5 農産物直売所

現状・課題

直売所の飽和やスーパーのインショップの展開等によって、店舗数は減少傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響による内食需要により、長崎市内の農産物直売所の全体売上げは増加傾向にあります。

しかしながら、開店時間が早い時間帯であることが多く、出荷者の減少によって夕方には品切れ状態となるなど、消費者の多様なニーズに十分に対応できていない状況が生じていることから、定年帰農者などの就農を促進し、直売所への農産物供給者の増大が図られています。

振興方策

- 1 農産物品揃えの拡充・人気商材の選定・店舗間産地間交流の促進
- 2 集客力の強化及び地産地消の推進と地元農産物の消費拡大
- 3 計画的な周年生産の推進・顧客ニーズに応じた生産体制の確立
- 4 ポジティブリスト制度対応とGAP（農業生産工程管理）の取り組み
- 5 加工品の開発・6次産業化に向けた取り組み
- 6 生産者が安心して出荷できる体制づくり

